

# 全電源喪失の記憶

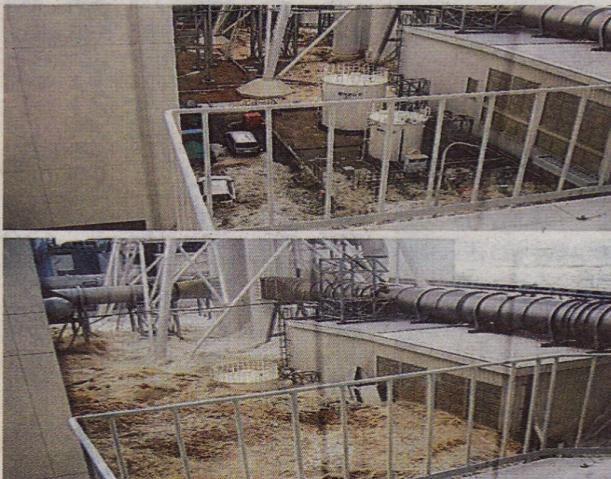
証言 福島第1原発

■ 第1章「3・11」

4

# やばい、建屋に海水が

## すぶぬれの運転員



福島第一原発4号機のタービン建屋付近に流れ込む津波。水が来て1分後には車やタンクがのみ込まれた(下)=2011年3月11日(東京電力提供)

福島第一原発1、2号機は非常用ディーゼル発電機(DG)が停止して全電源を喪失していた。中央制御室では原子炉をコントロールする制御盤の明かりが全て消え、照明も非常灯だけになつた。訓練でも想定したことのない事態だ。作業管理グループの大野光幸(51)は2号機制御盤の前でぼうぜんとしていた。

運転員たちからは「何だ、何だ」「どうしてだ」と声が上がつた。

どうすんべ、どうすんべー。大野は原子炉のことと同時に妻を心配していた。妻も東京電力社員で地震発生時には1号機から約200m離れていた。

「そつちは大丈夫だったか」妻は免震重要棟2階の緊急時対策本部に移動していた。お互いの無事を確認した後、対策本部の壁のテレビモニターを見ていた妻が言った。「うわっ、津波。岩手に津波。釜石。すごい。きゃあ」

運転員

にいた運転員で、地震発

生

した。妻も東京電力社員で地震発

た事務本館にいたはずだ。構内用PHSで連絡してみると「1回でつながった。

運転員

にいた運転員で、地震発

生

した。妻も東京電力社員で地震発

生

た事務本館にいたはずだ。構内用PHSで連絡してみると「1回でつながった。

運転員

にいた運転員で、地震発

生

した。妻も東京電力社員で地震発

生

だが大野にこの津波の深刻さは伝わらなかつた。制御室には窓もテレビもないのだ。制御室で作業を続けると告げて、大野は通話を切つた。1、2号機それぞれの渡せる位置にいたD班当に飛び込んできた運転員が聞きた。制御室には窓もテレビもないのだ。制御室で作業を続けます！」

「まさか自分のところにも津波が

来るなんて思わなかつたです。

郁夫(52)が聞き返す。

「どこに流れているん

からね」

制御室にいた運転員で、地震発

生

した。妻も東京電力社員で地震発

生

た事務本館にいたはずだ。構内用PHSで連絡してみると「1回でつながった。

運転員

にいた運転員で、地震発

生

だが大野にこの津波の深刻さは伝わらなかつた。制御室には窓もテレビもないのだ。制御室で作業を続けると告げて、大野は通話を切つた。1、2号機それぞれの渡せる位置にいたD班当に飛び込んできた運転員が聞きた。制御室には窓もテレビもないのだ。制御室で作業を続けます！」

「まさか自分のところにも津波が

来るなんて思わなかつたです。

郁夫(52)が聞き返す。

「どこに流れているん

からね」

だが大野にこの津波の深刻さは伝わらなかつた。制御室には窓もテレビもないのだ。制御室で作業を続けると告げて、大野は通話を切つた。1、2号機それぞれの渡せる位置にいたD班当に飛び込んできた運転員が聞きた。制御室には窓もテレビもないのだ。制御室で作業を続けます！」

「まさか自分のところにも津波が

来るなんて思わなかつたです。

郁夫(52)が聞き返す。

「どこに流れているん

からね」

だが大野にこの津波の深刻さは伝わらなかつた。制御室には窓もテレビもないのだ。制御室で作業を続けると告げて、大野は通話を切つた。1、2号機それぞれの渡せる位置にいたD班当に飛び込んできた運転員が聞きた。制御室には窓もテレビもないのだ。制御室で作業を続けます！」

「まさか自分のところにも津波が

来るなんて思わなかつたです。

郁夫(52)が聞き返す。

「どこに流れているん

からね」